

114
A3419



平布告案

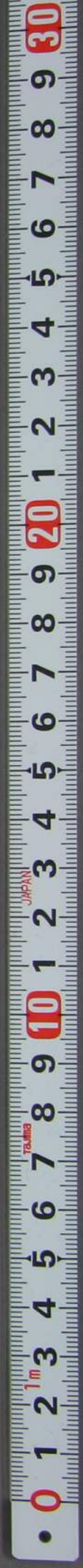
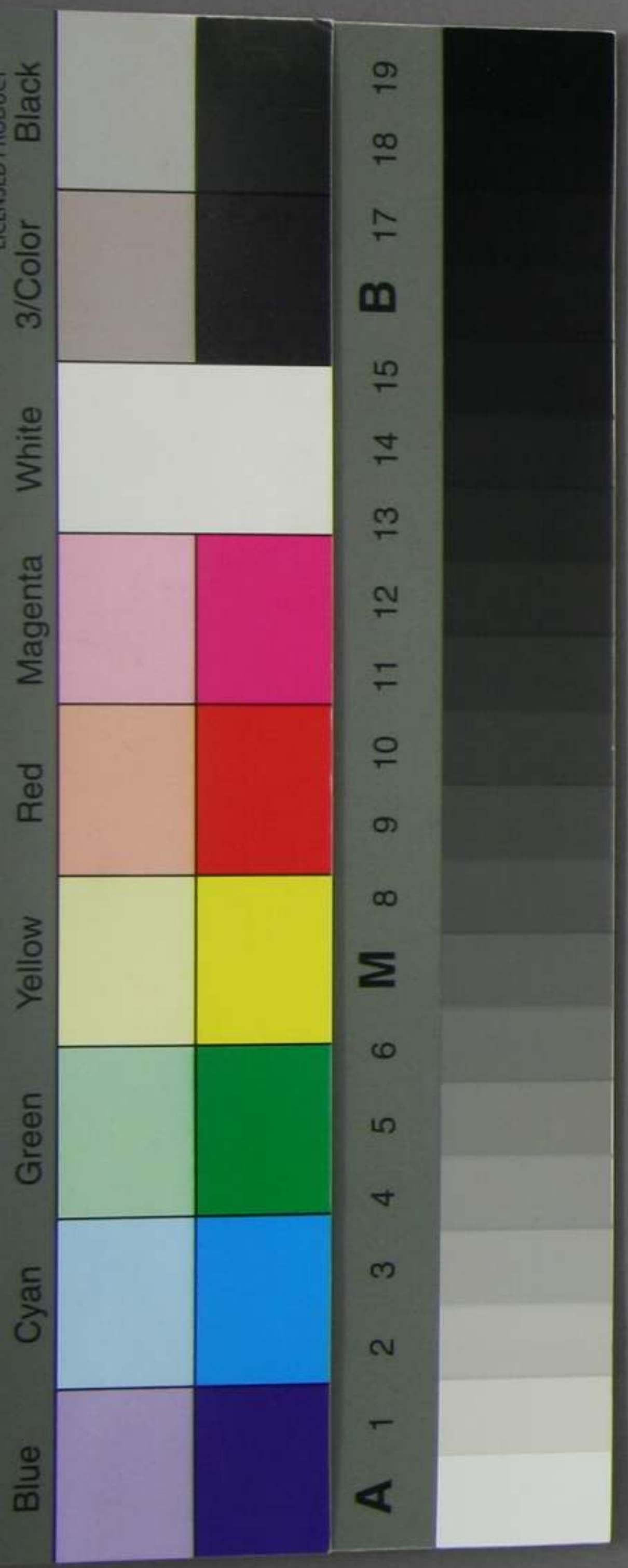
府便

大正十一年四月
大隈侯爵邸寄贈

金銀貸付利息、係裁制上、於右在、通、考定
以、作、右、刻、地、銀、以下、刻、兵、地、方、之、意、望、ヲ
以、至、世、親、之、意、ノ、及、布、送、之、目、法、方、ト、可、属
出、ノ、案、先、考、在、送、ノ、事、

大政大臣

明治八年十二月



Blank lined area on the right page.

第一條

此書上ニ於テ下年ニ割成拜ヨリ多カラカレ刻人
ト云ハズ、事

第二條

裁米上ニ於テ利子ニ利子ヲ加スハ利子ヲ拂ハスニ
テ三ノ母ヲ返キタリ時ニ限ルハキコリ

泰、諸國中、年（千四百百年）マテハ天主教ヲ奉スル国ニテ
 ハ利息ヲ付ケテ金ヲ貸スコトヲ禁ズコトアリ
 一七九十二年、他国革命後、利息ヲ付ケテ金ヲ貸ス
 コト自由ヲ許シタリ
 一八七七年、第一世ナポレオン帝国ノ時ニ當リテ、利息ノ自由
 一許スニ於テハ、其事ニ付テ離レサル弊害ヲ生スルコトヲ恐
 レ、其制限ヲ立ラタリ、即チ民事ハ五分、商事ハ六分ト定
 ムタリ
 然レ、此制限ヲ越スルコトハ、貪慾ノ罪ト爲シテ許シムハ
 一トシテマタリ
 利息ニ制限ナキトキハ、借主ノ迷惑トナルコトヲ防キ、且ツ貸
 主ノ貪慾ヲ防キタルモノナリ

の三

民法第百五十四條 利息銀ノ利息銀ヲ拂フニキノ義務
ヲ生ズルニハ一年以上ノ利息銀ヲ拂ハカリル時ニ限ルニ
アリ

經濟原ノ按抄
利息制限得テノ論

幣貸借ノ利息ヲ定ルノ法令ヲ貶議スル中ニ就キ其
綱領ニ条ヲ據記ニテ其餘ハ總ヲ盡サントス其一ハ尋常ノ
商位ニ於ケル如何ナル商業ヲ為ストモ政府ニテ聊カ關涉
スルヲナク其者ヲニテ務メテ許多ノ利ヲ獲ルヲ自由ナラシ
ムルニ獨貨幣ヲ貸與スルモノニ至リテハ他ノ商位ニ等ニテ利益
ノ為スニ甚ル却テ政府ヨリ嚴令ヲ立テ之ヲ禁ニテ自由
ニ貸與セシメサル事ニ又ハ貨幣貸借ノ條ハ一定ニ
タル者ナリトシテ政府ヨリ利息ノ多寡ヲ定ムルハ士民其生業ヲ
以テノ權ヲ大ニ妨害スル者ニシテ其割合ヲ格外高價ニ定ムル
ハ之ヲ借受スル者ノ害トナリ格外低價ニ定ムルハ之ヲ貸與
スルモノノ害トナリ此ノ二條ノ外更ニ政府ニテ利息ヲ定ムル
至當ナラサルノ二証アリ

其一、假令政府ニテ利息ノ多寡ヲ之レ法律ヲ之ルトモ氏
之ヲ循守スル者少ク又強テ之レヲ循守セシメトスルハ
之唯徒ラニ無頼ノ徒巴ノ負債ヲ免カレカ為メ在テ利息ノ
法令ヲ以テ實トシ奸詐ヲ逞シウスル助ケヲ答スルニシテ其他此
ノ貸金相立ノ利ヲ獲セシムルハ公道ノ人情タルヲ之ヲ禁スル法
令ノ如キ人誰カ快トスルモアラニ即其快トセサル法ハ之ヲ循守
スル者ナキヤ知ルヘシ然レテ循守セザルハ由縁ハ先ツ利息ノ多寡
ヲ政府ヨリ六分トシ之メタリトモ現在貸借ヲ為ス國中利息
ノ時價ハ八分ナルヨハ其法律ニ從ヒ六分ノ利ニ貸借スル者絶ヘテ
無クハ一ニ加之為替坐ニ於テモ其貨幣ヲ借受スルモノヨリ借
受リタル利息ト其時價ノ利息ト差違ヒタル額ヲ償ハントスルニ

の又

且此ノ法令ノ畢竟國益衆情ニ背及スルモノナレハ人皆之ヲ
之トシテ百計ヲ盡スニ至リ或ハ之ニ背ムクモノ有リトモ其
モ我罪ナリトシ自及シテ其心ニ悔悟スルモノナケニ蓋シ是等ノ事不
知短才ノモノモ領知スヘキ況ニヤ尊貴ナル會計官吏ニ於テヤ利
息ノ時價九分ナルヲ為替坐ニテハ實ニ之レヲ七分ニテ貸金リト思
慮スルノ課誤ハ無ラニモナリ其レ又為替坐ノ如キハ全ク名義
ノ三分七分ニテ貸金アリトモ利息ノ外或ハ償還ノ証或ハ謝金
之類ノ利ヲ以テ其償ヲ得ルハ初メヨリシテ九分ノ利息ヲ收ムル
者ト輕重ノ弁アルヲナシ然ラハ則斯ク國中ニ行ハレサル法令
ニ衆庶ノ侮弄ヲ招カンヨリハ寧ロ之ヲ廢止スルニ如カス
其二衆人此法律ヲ循守セザルヲ却テ不幸中ノ幸ニシテ苟モ猶
守スルヲアテハ其害更ニ測ル可カラス抑此法律ヲ以テ人
的ニ六借者ヲ扶助スルニ在リテ其貨幣ヲ借受スルニ便利ヲ得

義
首

テ容易ナラシメントシテ拳ナル一シ然レトモ政府タラシモノ擇リ借者ノ
ニテ助ケ貸主ヲ助ケザル如キ偏頗ノ事アルカラス又借者ヲ
借ニスルモノ平常産業ヲ營ムニ於テハ政府ヨリ莫ク之レカ助ケ
ヲ為ラズ唯貨幣ヲ借ントスル時ノ之レヲ助ルテ異シム一又
元来自ラ其生産ヲ治ムルヲ得ベキ者ニ對シテ政府ヨリ特ニ貨幣
ヲ借入ルル一ニシテ無益ノ助ケヲ為ス時ハ却テ借者ノ才
智ヲ輕蔑スル一近シ加之貸主若クモ政府ニテ之ニ利息ノ法律ヲ確
シテ遵守スルコトアラバ貨幣貸借ノ道自ラ不融通ニシテ借者却テ
大ナル不便利ヲ生ス一是ヲ以テ政府ノ助ケアルハ貸主ノ惠ニ非ス
一借者ノ惠ナレハ寧ロ其助ケアラコリハ其助ケナカラコトヲ希フ
一何ニトナレバ今一人貨幣ヲ借受セトスル者アリ窮迫ニシテ借主
ニ還ル有無ヲ危疑スト虫氏若シ九分ノ利自ラハオハ且其人
貸セル負債ヲ或ハ償還スルナキモ其利息ノ多キヲ以テ償

のそ

ヲ獲ントシ之レニ貨幣ヲ貸スコトヲ肯ス一然レモ法律ニテ是レ七分
ノ利息ニテハ窮迫ニシテ償還スル難ヒアルモノ、如キハ決シテ一元ノ利
之レニシテ又九分ノ利息ニテ自由ニ借借スルコトヲ得ベ
キナル自ラ貸主ニ之レヨリ過分ノ利息ヲ貸ラザル一若シ七分以外
ノ利息取ルコト法律ニ背ケリトスル時ハ會々貸主モアリトモ一割
又ハ一割ニ三分ノ重利ヲ貸ホラズニハ貸主モカラス是レ其法ニ背ケ
コトヲ知リ豫メシテ發覺ノ失費ニ免ントスルハバ且又利息時價
ガ多ナルニ法律ニテ強ヒテ之ヲ定ル寸ハ且之マテ金銀ノ利息時價
業トセシモノモ以後金銀ヲ貸スコトヲ廢シ他ノ産業ニ之ヲ用ル更
ニ六利ヲ獲ントスル者漸次ニ多クシテ貸サントスルモノ愈々ナラシム
一之レ以之見レバ貨幣利息ノ法ハ衆人若シ之レヲ遵守スルコトヲ
借ントスル者ノ為ニ却テ害ヲ生シ又其法ヲ犯シテ貸借者ノトモ
氏等ノ猶借者ノ為ニ損害ヲ生スコトヲ以テ其人ヲ助クルカ

為之設ケル法ニシテ如此不愛立ナルモノハ未タ之ヒアラシ

の七

明治九年二月

大

法制局
大史

議
輔

紙司法有同科料金ノ儀及審按假處右標種ノ
票券ノ券又ノ貸借上制限ヲキノ致ス所就中利息制
限ノ如ク各國ニ在テモ皆一タヒ之ヲ設クセサル者蓋シ
其貨殖上進歩ノ度ニ於テ自ラ之ヲ制限セサルヲ得ル者
アリ
今日我國金融ノ壅塞及ヒ人民ノ湯産ノ衆キ
利息ノ過甚ニ由ルト云々ヲ得サル者アリ故ニ先ツ利息制限
ル設ケ相成度即チ別紙ノ通条例取調仰高裁也

御布告按

月 宣 年 二 月 七 日 第 四 十 号 及 之 明 治 六 年 三 月 七 日 第
子 一 号 以 金 銀 利 息 之 布 告 并 之 被 廢 更 之 左
國 之 制 定 候 条 此 旨 布 告 候 事

の八

利息條例

第一条

一、 穀貸借ノ利息其契約ヲ以承リ定ムル者ハ一年
二分即チ百ニ分ヲ過ク（カラス此ヲ踰ル者、非法ノ

但令、 田以下穀物ニ石以下ノ貸借ハ特ニ一年一割五
分十五ニテノ利息ヲ契約スルヲ得

第二条

上ノ利息

裁判上ノ利息ハ契約ニ違フナクニテ
訴訟ニ付法司ヨリ之ヲ裁スル者ヲ云フ
ハ一ヶ年六分

第三条

借入ル者其契約元高ノ全數ヲ以テ之ヲ取
主ハ元高ノ内ヨリ先ツ其利息ヲ引去ルヲ得ス

第四条

借主三、定制利息、其別、禮金手續、等、
ルラス
六、五、子

利息ヲ取ルルハ、約定ヲ為シタル貸主ハ其貸金
數ニ至ルマテ、罰金ヲ科ス其再犯スル者ハ此罰金
ハ、再犯ノ情尤モ重キ者ハ此罰金ヲ倍科スル
ルベシ

第六条

借主犯ス者ハ其先ツ引去リタル高ノ五倍以上、五倍
以下ノ罰金ヲ科ス其第四条ヲ犯スモノハ其受テ取リタル
上、以上廿倍以下ノ罰金ヲ科ス其再犯スル者ハ第五
例ニ視ル

の十

第七条

借主ハ其元金中若干部を拂合済シ、其元金者ハ
其元金中若干部を拂合済シ、其元金者ハ

第八条

借主詐偽ヲ行ヒタルノ証、其元金中若干部を拂合済シ、其元金者ハ
其元金中若干部を拂合済シ、其元金者ハ

第九条

借主ハ其元金中若干部を拂合済シ、其元金者ハ
其元金中若干部を拂合済シ、其元金者ハ

自

判セシ分ニテ之ヲ請取リタル日ヨリテ利息ハ日ハ五借

第十條

主に濟遠約ノ罰金奉約金等ニ預メ總シテ
ノカスモノハ罰金等ヲ犯スモト同シ
第十一條

此條例布告前ニ在テ一ヶ年一割二分以上
息ヲ約セシ者此條例布告ノ日ヨリ以テハ總テ之ノ
利息引キ減スハシモ其引キ減セサル者ハ第五條
同シ

不レ知テ利ノ證文ヲ書キタルハ必要トセズ

の十一

消費スルモノノ借料即貸シタル金窓ノ邊ハ一キ
存スル差ナク古ニ於テハカトリキ一宗ノ

左ノ教条ニ基キ息銀ノアル貸借ヲ禁シタ即チ

キ物品ハ利益ヲ得ルノ望ミナリ之ヲ貸スニト斯
ルノ息銀ヲ取テ貸スルノ禁制ハ商工業ヲ損ル實貨ノ
通

利ノ徒ハ法ヲ避ケ利ヲ圖リ種々好ナ
長大ノ高利ニ至ルハ弊ヲ醸シタリ

年革命ノ時ニテリ法律以テ息銀アル貸借

スル者概テ抑止タルヲ信セス

相互ニ約定スルニ至レリ氏

弊、注目、第九百の七条

是、合、追テ法律ヲ以テ之ク定ム

其割合、証言中ニ明記シ多ク弊ヲ防グ

是、合、追テ法律ヲ以テ之ク定ム

其割合、証言中ニ明記シ多ク弊ヲ防グ

是、合、追テ法律ヲ以テ之ク定ム

其割合、証言中ニ明記シ多ク弊ヲ防グ

是、合、追テ法律ヲ以テ之ク定ム

其割合、証言中ニ明記シ多ク弊ヲ防グ

ヲ約定スルヲカス

ノ過分ヲ約定スルノヲ厳科セントス

の十一

アル貸借ハ付 千八百七十九年一月一日

律の十三

然テ以テ定メル息銀ハ民事ニ於テハ

五分(百ニ付)商事ニ於テハ六分(百ニ付)ヲ過ルヲ付ス

但シ何レニ於テモ元金ノ内ニハ息銀ヲ差引ケテ

算入シテ息銀ハ民事ニ於テハ五分(百ニ付)商事

六分(百ニ付)タルニシ

然レニ於テモ元金ノ内ヨリ息銀ハ差引ケテ

算入シテ定メタル息銀

ハ六分ヲ受取リタルニ於テハ其過分ハ返還

既ニ此銀ヲ受取リタルニ於テハ其過分ハ返還

古
二百八十八條 由ヨリ其過ハヨリ去ルルキ日ヲ言ハス

ハ合ヨリ次条ノ定ニ依リテ爲スルノ輕罪裁

出所ニ送ルルコト

頻次法律ニ定ムル息銀 過分ヲ知ラ

ハアル者ハ輕罪裁判所ニ送ル 果シテ之

ハ其年ノ度ニタル元金高ノ半ニ過キザル

又貸主奸計アルコトヲ疑ハシムルハ

外更ニ二年ハ禁錮ニ處セラル

千八百五十年十二月十九日ノ銀犯罪法律

七年九月三日ノ法律 第三条及第四条ヲ左ノク改正

民事又ハ商事ノ訴訟中契約ハ其ノ定メタル息

率上ノ割合ヲ過ルコトヲ明クシタル時

至然ル者 上ノ息銀ニ 並テ 何銀ニアル時ハ 其ノ内

加ヘシム

皆濟ナリシ 貸主ハ其不告ニ請取リ

金算ニ其請取リシ日ヨリ利息ヲ加ヘ返還スルニ申渡

受クニシ の十ナ

テ記シノ 民事又ハ商事ノ裁判 申渡書ハ

内ニ 裁判所ノ書記官ヨリ 換事ニ 送スル

十六コトニ 以上百フラン以下ノ罰金 處

次法律ニ定ムル 銀ヲ割合ヨリ 過分ヲ知

スルモノハ 其算ニタル 金算ノ半

以上六十以下ノ 禁錮ニ 處セラル

第百九十一條 凶犯ノ場合ニ 方テハ 前条ノ 掲ケル 刑

ノ重罪ニ得

倍ニシテ増スルヲ得

但ニ刑法第五十七條及第五十八條

觸ルハナシ

但次法律ニ定メタル息銀ノ過分ヲ約定ス

ルハ其裁判申渡リ受ケシ後五年

内ニ其罪ヲ犯ストキハ事一回ニ止ルハハ之ヲ再

做スル

若シ貸主奸計ヲ行セシムルハ刑法第四百

五條ニ掲ケタル刑ニ処セラル

七律第一條ニ定ムル罰金ハ罰銀ノ

可レ、場合ニ依リテ七裁判ニ依リテ清状ノ輕

重ノ人ノ自費ニ依リテ申渡スルハ街道

又且其摘要書ヲ州ニ送付スルハ一個或

新聞紙ニ記シセシムルヲ得

所ニ於テハ何等ノ場合ニテモ刑法第四百

五條ニ適施スルヲ得

該件刑法第四百六十三條末項ニ記スル罰金ハ摘要書

ノ送付ニ依リテ之ヲ申渡スルヲ得

の十又

五月二十三日如左改ム 重罪ノ多クニ依

テテ刑ヲ言及サレシ後更ニ懲治ノ刑ニ處ス

ルハ又ハ重罪ヲ犯セシムルハ法律ニ定メタル重

ノ懲罰刑ニ處スルニ但シ其期限ノ通常ノ如

ク之ヲ増スルヲ得

此ノ如ク受ケシ者ハ五ニテサナカニ十年ヨリ

多ニ... 明治政府ノ監獄ヲ受ク(シ)
カト
小百六十二年五月十二日(シ) 左改ム 輕罪ニ

一年以上禁錮ノ刑ノ言渡ヲ受ケシモノトシ

處ス(キ)輕罪又... 罪ヲ犯セシムルハ

至重ノ懲治刑ニ處セラレ(シ)但シ其期限ハ通常

倍ニ倍ニ増ス(シ)得(シ)又其再犯ハ

手... カラス十年ヨリ多カラザ(シ)時ニ政府ノ

受ク(シ)

一千八百六十三年五月十三日(シ) 左改ム 偽 姓名

ヲ用(シ)或ハ偽リノ身分ヲ稱(シ)或ハ偽リノ起作ノ實

信據ヲ人ニ託(シ)示ス(キ)タノ詭計ヲ用

テ無実ノ成カ及ヒ無根 事改ヲ希望

長怖セシム(キ)タノ詭計ニ用ヒテ人ニ所有ス

一 產義務ノ證書ニ關

ノ證書ヲ巴(シ)渡(シ)メ或ハ渡(シ)テ 手形ノ給付書ヲ算

其為計ヲ以テ人ノ產義務 全部又ハ一部ヲ奪(シ)或ハ得

ニト試(シ)ミナシタル者ハ一年ヨリ少ナカラス五年ヨリ多

ク禁錮ノ刑ニ處セラレ(シ)五(シ)十(シ)フランク(シ)ノ少ナカ

ラフランク(シ)ヨリ多カラザ(シ)罰金ノ言渡ヲ受ク(シ)

他人ノ其刑ヲ受ケシヨリ五年ヨリ少ナカラハ十

ノ多カラザ(シ)時ニ第四十二條ニ記(シ)ル權利

ヲ受ケシムル(シ)ラガ(シ)但シ此規程ト其犯人

ニ贖送協定ノ重罪アルオ更ニ重キ刑ニ及ス(シ)規程

ト相違(シ)ナカ(シ)

條規程

第四百六十三 一、百六十年五月十三日如左改定 犯罪ノ証

アル被害ノ法律ニ循ヒ處スル刑ヲ輕減スルモ狀
情アルコトヲ陪審ノ決定ニタハハ古ノ如ク其刑ヲ減

法律ニ循ヒ死刑ニ言渡スルモオハ裁判所ヨリ
去 徒刑又ハ有期ノ徒刑ヲ言渡スルコト

相ノ裁判ヲ言渡スルモオハ裁判所ヨリ有期ノ徒
刑ノ徒刑場内ニ於テ使役スル刑ヲ言渡スルコト

若シ成案中ニ繫囚スル流刑ヲ言渡スルモオハ裁判所ヨリ
通常ノ流刑又ハ囚獄ノ刑ヲ言渡スルコト但第九十六條
及ヒ第九十七條ニ記シタル場合ニ於テハ通常ノ流刑

ヲ言渡スルコト
一、言渡スルモオハキトキハ
ヨリ囚獄ノ刑又

ハ追放 刑ヲ言渡スルコト

若シ有期ノ徒刑ヲ言渡スルモオハ裁判所ヨリ徒刑場
内ニ於テ使役スル刑又ハ第四百一條ニ記シタル刑ヲ言
渡スルコト但シ其禁錮ノ時間ヲ二年ヨリ少ナク減スルカ

の十七

若シ徒刑場内ニ於テ使役スル刑囚獄ノ刑追放ノ刑公
刑ノ刑ヲ言渡スルモオハ裁判所ヨリ第四百一
條ニ記シタル刑ヲ言渡スルコト但シ其禁錮ノ時間ヲ一
年ヨリ少ナク減スルカ

若シ有期ノ徒刑ヲ言渡スルモオハ裁判所ヨリ
減スルモ情状アルニ於テハ裁判所ヨリ至輕ノ施体ノ刑
ヲ言渡シ又ハ施体以下ノ刑ヲ言渡スルコト
刑ノ場合ニ於テモ法律ニ循ヒ禁錮ノ刑ト罰金ト

ヲニシテ、
再犯ノ場合トモ、
並ニ罰金ヲ左ノ如ク減スルニ

ノ種類又ハ罪ノ輕重ニ因リ法律ニ指シ一

サナカラザル禁錮ノ刑又ハ五百以下ノ

其罰金ヲ言渡ス(キトキハ裁判所ヨリ其禁錮

所ヲ六トシテ減シ且其罰金ヲ十六以下

減スルヲ得(キ

其他ノ場合ニ於テハ裁判所ヨリ其禁錮ノ時間ヲ六

日以下ニ減シ其罰金ヲ十六以下ニ減スルヲ

得(キ又其禁錮ノ刑ト罰金トノ中其一箇ノ

ニ度シ又禁錮ノ刑ト換テ罰金トシテ言渡スヲ得

(キ但シ此ノ場合ニ於テハ其罰金ハ註誤ノ罪ニ付

言渡ハシテ罰金ヨリサナセテ得カレ

貸ノ上科料金等ノ名目ヲ持ケタル證書ノ
儀ニ付伺
の十九

其 他 貸 借 上 人 民 中 一 種 ノ 弊 習 下 生 シ 其 功
ニ 定 ヲ 取 結 フ カ 或 ハ 延 期 ノ 約 定 ヲ 取 結 フ 節
於 予 豫 ニ ヲ 又 違 約 ヲ 為 ス ニ 就 ン 約 定 ヲ 為 已 科 料
金 等 金 債 金 等 ノ 名 目 ヲ 以 テ 巨 額 ノ 金 高 ヲ 定 ヲ 證
書 上 公 然 之 ヲ 記 載 シ タ ル 者 往 々 之 レ ア リ 裁 判 官
於 予 或 ハ 之 レ ヲ 遂 ク ル ヲ 得 ン 約 定 上 或 ハ 之 ヲ 違
ル ヲ 違 約 ン ア ラ サ ル 約 定 上 者 ア リ 其 論 六 ル 所 名 同 上
ヲ 違 約 ン 民 ノ 迷 ヲ 生 ス ル 情 モ 有 之 右 八 後 二 月
一 定 ノ 成 規 律 無 之 ヲ 如 此 ノ 不 節 合 ヲ 生 ス ル
早 竟 人 民 私 約 上 於 予 一 方 ノ 也 其 約 定 ヲ 違 變 ン
ニ 因 リ 受 ケ タ ル 損 害 ノ 償 ヲ 請 求 ス ル ヲ 得 可 キ

道理アリトシテ其違約ヲ罪アリトシテ之ヲ懲スノ
權ニ於テハ敢テ管ル可キ所ニ非ス然レハ實際損害ヲ
受ルル時ハ其損害高ニ應ニ相當ノ金額ヲ請求ス
ルハ得ルニ雖モ實際ノ損害如何ノ明ラカニモス
罰金科料等不都合ノ名目ヲ掲ケ金額ヲ決定シテ
之ヲ請求スル道理ハ無之ニ付速ニ別紙ノ通所布告
相成候様致度仍ラ所布告案相添此段相伺候也
明治八年十二月十四日 司法卿大木高任

三條太政大臣殿

所布告案

一 款其他物品貸借違約ニ付テハ償金ハ其違
約ノ為メ損害ヲ受ケ又ハ得ル利益ヲ妨
ケラレタル實際ニ因リ相當ノ金額ヲ請求スルヲ得
ルニ付、二 罰金違約金科料 金等ノ名目ヲ以テ証書上
償金ノ額ヲ確定シタルモ實際ノ損害又ハ得ル利益
ニ適當ナルハ於テハ裁判上其約定ノ効之レナク候
条ハ所布告候事

